

社団法人日本ビリヤード協会平成 25 年度事業計画

1 震災募金に関して

期限を区切らず続けます。

2 組織

25 年度中には NBA 本部が日本体協に加盟する予定です。

資格認定、指導員制度、審判員制度の明文化が必要となります。システムが稼働するまでに数年を要しますが、制度だけは明文化されている必要があります。

3 普及事業

協会のアピールとしては適切な運動量と、頭を使うことによる認知症防止、コミュニケーション等があります。現在増えている高級高齢者施設では、入居者のニーズに応える姿勢をとっており、その中にビリヤードも入っているようでいくつかの問い合わせもありました。講師派遣依頼がくればできるだけ協力をお願いします。公共の高齢者施設には全撞工の協力でテーブル貸与・贈呈を続けてゆきます。

若年層への普及も重要です。児童館などからオファーが来れば極力受けるようにして下さい。いずれも、一度二度はボランティアでも、度重なるようでしたら本部にご相談ください。多少の補助はできますが、基本は支部としてもやらなければならない事業です。協会所有のミニテーブルは、引っ越し便で送ることができますので、各地のイベントで使うことは可能です。現在東京都の新宿区では校長会（区立学校の集合体）に諮るべく準備中です。

昨年復興支援連合会よりミニテーブルの寄贈があり、積極的に活動を展開する予定です。

競技会ではありますが、学生層への普及のため、学校対抗選手権も継続します。かなりの事業支出を伴いますが絶対に続けてゆかなければならない大会といえます。11 回大会は震災のため中止、10 回大会と 12 回大会は定員割れのため 20 校で開催しましたが、24 年度開催の 13 回大会は再び 24 校の参加があり、復活の兆しを見せています。

普及・指導事業は、ビリヤード協会が永久に続けてゆかなければならない事業です。

4 選手強化

本年度は 6 月開催のアジアインドア&マーシャルアーツゲームズ（韓国／仁川）に、選手 11 名、オフィシャル 2 名、TD1 名、帯同審判 2 名を派遣します。また 7 月開催のワールドゲームズ（コロンビア／カリ）に、選手 3 名、オフィシャル 1 名の派遣をします。

このため他の選手強化事業までは手が回らないのが現状です。

5 ジュニア

ここ数年日本のジュニアクラスは層・レベルと共にかなり充実していましたが、その充実したメンバーが徐々にジュニアを卒業し、世代交代を迎えています。このクラスは常に新メンバーが登場していないといけないのですが、全国的に選手層が薄くなっているのが現状です。タレント発掘も協会の重要な仕事であり、また、ジュニアの充実はそのまま普及にもつながります。またジュニア・学生層への普及は体協加盟や地区教育委員会とのつながりが有効な手段であり、組織の発展ともつながりをもってきます。

本年の世界選手権は南ア、中国、カタールが立候補しています。

6 国体記念大会

国体は平成 29 年岩手まで参加が決定しています。本年の記念大会は長崎市の特設会場で開催されます。

7 大会開催・・・トーナメントスケジュールによる。

8 大会派遣・・・例年通り世界選手権に代表を派遣。

9 法人制度の変更について

当初の予定より遅れましたが本年 11 月末日までに公益社団法人に移行する予定です。

10 各種委員会

アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属する JPBA と JPBF、そして NBA 本部で構成した委員会で活動しています。今年度は 2 大会で 4 検体の検査を予定しています。それにとまなう TOTO の助成は申請済みです。

CS 委員会

実際に回転しているシステムにつき、急激に大きく変更することは不可能ですが、現状は過去最低ラインであり、一新することも視野に入れなければいけない時期に来ているともいえます。

助成金審査委員会・選手選考委員会

必要に応じ開催します。本年長崎県ビリヤード協会に 15 万円の助成をする予定です。

協力金委員会

ほぼ正常に回転しています。システム自体は問題ありません。